

場所

東京都世田谷区

面積

0.47ha

活動目的

お客様の憩いの場として、身近な自然を楽しむ安心安全な場所を整備している。生態系保全、景観の向上、定期的に開催している緑地でのイベントなどを通じて二子玉川エリアの地域コミュニティーの醸成等、地域社会に貢献することを目的としている。

**サイト概要**

1969年開業の商業施設の屋上庭園「フォレストガーデン」と3Fテラスの「ローズガーデン」は約50年の歴史をもつ庭園で、在来種を中心とした階層構造が発達した樹林、果樹エリア、シバや草地、バラなど様々な環境を創出した空間で四季折々の花や実が楽しめる。IPM管理、選択的除草など生態系へ配慮した植栽管理を行っており、安心安全な緑地は、地域のみなさまの憩いの場所として、環境教育のイベントを実施する場所としても利用されている。多様ないきものが立ち寄るのが確認され、人もいきものも集まる緑豊かな空間である。時代に合わせてお客様の憩いの場となる庭園だったが、今後もお客様のみならずいきものにとっても憩いの場であるよう、二子玉川エリアの連続する緑地として在来種を中心とした植栽管理を意識していく。

**土地利用の
変遷**

江戸時代は素晴らしい景観から「玉川八景」と称えられ、文人墨客も多く訪れる風光明媚な土地で屋敷林や水田・畠が周辺に多く見られる環境だった。「二子の渡し」は「大山道」の一部で茶屋、宿屋などで賑わい、昭和に入ってからは住宅地の庭園、空き地、田畠が広がっていた街に1969年、玉川高島屋S・Cが開業した。商業施設建設直前の土地利用は畠だった。開業当初の1969年からフォレストガーデン、1998年にローズガーデンが整備されている。1989年にフォレストガーデンをリニューアルした際には、多摩・武蔵野の原風景を構成する雑木林を再現するように下草から高木まで様々な樹種や植物を選択し、虫や鳥などを呼び寄せる生物多様性を育む空間作りを目指した。

**サイト周辺の
環境**

多摩川やその河川敷、国分寺崖線が近くにあるなど、都心に近いながらも水と緑にゆかりのある豊かな自然環境を持つ土地である。砧公園や二子玉川公園、住宅地のみどりやわずかに残る農地が近くにある環境である。

**アピール
ポイント**

玉川高島屋ショッピングセンターは1969年に開業した日本最初のショッピングセンターで、年間1,400万人に来館いただいている。50年以上、街の中で屋上緑化に取り組み、緑地を維持管理し続け、2014年にはSEGES都市のオアシス認定を取得。当時植栽された樹木が大きく成長し、豊かなみどりの空間を提供している。対象敷地合わせて約160種の植物が植わり、来客者にみどりの空間を憩いの場として利用していただいたり、みどりを活かして環境教育の機会も提供している。また、IPM管理やいきもの調査を行い、いきものが街の中でも育成しやすい環境を整え、周囲の多摩川や国分寺崖線などの自然環境とのネットワーク化を目指している。当緑地は、ショッピングセンターという場所でありながら人といきものにとって自然環境の場を提供している場所である。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

緑地空間は利用者の憩いの場になっている。フォレストガーデンの果樹エリアにはウメ・カキ・ヤマモモなどの果樹も植えられており、ローズガーデンでは四季折々の花が咲く植物やハーブとともにそれらを利用したワークショップのプログラムも企画運営している。ワークショップ（イベント）では子どもたちと観察するなど、緑地の生態系を活かして文化的サービスを供給している。

【主な植生】

フォレストガーデン：ヤマボウシ、アラカシ、シラカシ、エゴノキ、モッコク、イロハモミジ、ヤマモモ、ニシキギ、ヤブツバキ、リョウブ、サカキ、ススキ、ネジバナ、メヒシバ、エノコログサ等

【確認された主な動植物など】

- ・フォレストガーデンは年間通して様々な花や果樹があるため、昆虫類は特に多くみられる。アオスジアゲハ、ナミアゲハ、クロアゲハなどの蝶類や、オオスズメバチ、クマバチ、セイヨウミツバチなどのハチが確認され、ショウワリヨウバッタモドキ、テントウムシ、オナガサナエ等の昆虫類、ジョウビタキ、ハクセキレイ、メジロ、ヒヨドリなどの鳥類も敷地を使用している様子が確認されている。樹林・草地・花が咲く樹木等多様な空間があるので、いきものの生育場所が確保できている。

- ・捕食者・被捕食者の関係のいきものも確認されており、この場所で生態系が構築されていることがわかる。

- ・選択的除草を行い、例えばチョウ類の食草となるカタバミを少し残しておく管理をして、いきものと植物の関わりを確認している。植物と昆虫の関わりについて子ども向けイベントで環境教育として解説している。



写真の説明：子どもたちに向けた環境教育イベント



写真の説明：フォレストガーデン下層植生 ユキヤナギ、ミツバツツジ、ベニシダ、ヤブラン

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

玉川高島屋S・Cにつながる自然環境として多摩川、多摩川河川敷や国分寺崖線、二子玉川公園、二子玉川ライズの緑地、砧公園、住宅の庭等がある。水辺のつながりや草地で生息するいきもの、国分寺崖線から森のつながりで飛来するいきものどちらも確認され、様々な生活史のなかで採餌や繁殖等の目的で立ち寄る緑地としてエコロジカルネットワークのひとつになっている。



【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

【対象となる動物種】

ハチ類、アブ類などの昆虫類

【動物が利用している生活史】

ローズガーデンで冬季から春先にかけて開花する植物の吸蜜源があり、周辺の餌の少ない冬の時期は特にハチ・アブ類が多く飛来する。12月にホソヒラタアブを始めとしたアブ類（フタホシヒラタアブ、クロヒラタアブなど）やクロスズメバチが複数回確認されており、採餌のための重要な場となっている。

写真の説明：12月冬季においても飛来、採餌が確認されたホソヒラタアブ



写真の説明：12月冬季においても飛来、採餌が確認されたクロヒラタアブ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>■植栽管理方針</p> <p>①景観・在来種に配慮した植栽管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋上だからとコンパクトな樹形にせず、安全の範囲の中で自然樹形で伸び伸びと大きく育てている。人の手の届かない大きな木の上では鳥が羽を休めたりと多様ないきもの立ち寄りにつながっている。商業施設において雑草管理は不可欠であるが、例えば芝生の中のスズメノカタビラ・カタバミ等草本の特徴をみて選択的に残してみるなど、景観及び利用に問題ない範囲で多様性に配慮し、選択的除草により下層植生には在来種をなるべく残すよう意識した植栽管理を行っている。 <p>②みどりを活用する管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきもの観察を含めたガーデンツアーや植物を活用したクラフトイベントなど、みどりを利活用している。利用者のいきものへの理解を深めることにより許容する心を育てる取り組みを行っている。 <p>③利用者が快適に過ごせる緑地の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきものや利用者に安心・安全な緑地であるためIPM植栽管理（＊）を採用し化学農薬や肥料だけに頼らない管理を実践している。危険箇所への立ち入り、植物の踏圧など人の利用状況を把握し対策を行うことで人が立ち入らない箇所と人が積極的に利用する箇所ができ、結果いきもの立ち寄りが増えている。人が立ち入らない箇所には落ち葉を清掃せず林床に残したままにするなどの配慮も行っている。 <p>（＊）人の健康に対するリスクと環境への負荷の低減を図り、生態系の搅乱を可能な限り抑制して、生態系が有する病害虫及び雑草抑制機能を可能な限り活用する。</p>	<p>【モニタリング対象】 植物、鳥類、昆虫類、ほか</p> <p>【モニタリング場所】 フォレストガーデン・ローズガーデン緑地全体</p> <p>【モニタリング手法】 ルートセンサス フィールドワークによる目視調査</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家によるモニタリングは年に1～2回 ・植栽管理業者による日頃のモニタリングは年間を通して隨時（年間約3日の休業日以外出勤） ・年に2回程度開催されるイベントで地域の子どもたちといきものを観察 <p>【モニタリング実施体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> （株）自然教育研究センター 年に1～2回調査（昆虫・鳥） （株）グリーン・ワイズ 植栽管理の日常管理でいきものを確認した際に写真記録（植物・昆虫・鳥）